

大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年

記念事業報告書



2008 年

大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年

記念事業実行委員会

はじめに

シカゴ市は、大阪市の海外事務所を昭和 33 年に開設するなど結びつきが強く、現在も経済、文化、スポーツなど様々な分野において活発な交流が行われております。ニューヨーク、ロサンゼルスに次ぐアメリカ第 3 位の都市で、コンベンションや国際金融、国際商品取引をはじめ、物流、情報等の中心地としてビジネスの中核で大きな役割を担っています。

また、シカゴは近代建築の宝庫と呼ばれ、超高層ビルなど近代建築の巨匠が手がけた斬新な建築物がまちの随所に見られるほか、南部陽一郎名誉教授をはじめノーベル賞受賞者を多数輩出しているシカゴ大学やアメリカ三大美術館のひとつであるシカゴ美術館等を擁するなど、教育・文化面にも大きな力を注いでいます。

本年は、大阪市がシカゴ市と姉妹都市提携を行って 35 周年という節目を迎え、シカゴ市では大阪市の魅力を、大阪市ではシカゴ市の魅力をそれぞれ紹介するイベントが数多く実施されました。また、両市の間では活発な人的往来もあり、大阪・シカゴの友好関係をさらに深める一年となりました。

ここに、当実行委員会主催の事業をはじめ、大阪・シカゴ両市において行われた 35 周年記念事業について、取りまとめてご報告するとともに、これらの実施に際して多大なご支援とご協力を賜りましたエドワード・ドン在大阪・神戸米国総領事をはじめ、ご協賛・ご協力いただいた企業・団体等関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

大阪とシカゴの友好親善の今後ますますの進展を祈念いたします。

2009 年 1 月

大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業実行委員会
委員長 世 一 秀 直



《 目 次 》

I. 大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業一覧

II. 大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業

1. 2008 大阪ハーフマラソンにシカゴから姉妹都市招待選手が参加
2. シカゴ・ジャズ・マンデーの開催
3. 大阪市立高等学校とウォルター・ペイトン高等学校との姉妹校交換プログラム
4. シカゴ姉妹都市フェスティバルにて大阪を披露
5. シカゴ繁昌亭公演の開催
6. 日本祭りへの出展と大阪写真展の開催
7. シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会一行の来阪（同時開催：水のイベント）
8. スピーチコンテスト優秀者の相互訪問
9. 大阪ガーデンの整備
10. メラメド CME グループ名誉会長の来阪（同時開催：シカゴ写真展等）
11. 大阪ガーデン・アニメ・ナイトの開催
12. 大阪グルメナイトの開催
13. 柏木大阪市副市長のシカゴ市訪問
14. シカゴ・ジャズ・コンサート～YOKO NOGE & JAZZ ME BLUES～の開催

III. 資料

1. 大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念実行委員会について
2. 大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年の歩み

I. 大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業一覧

○：大阪側主催事業

●：シカゴ側主催事業

開催時期 (年月)	開催場所	
	大阪	シカゴ
2008 年 1 月	○大阪ハーフマラソンへのシカゴ招待選手 の参加	
2 月		●シカゴ・ジャズ・マンデー（～12 月）
6 月	○●姉妹校交換プログラム	●シカゴ姉妹都市フェスティバルでの大阪 披露 ●シカゴ繁昌亭公演 ●日本祭りへの出展と大阪写真展の開催
7 月	●○シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会 一行の来阪 ○水のイベント ●○スピーチコンテスト優秀者の相互訪問	●大阪ガーデンの整備（～10 月）
8 月		○●スピーチコンテスト優秀者の相互訪問
9 月	●メラメド CME グループ名誉会長の来阪 ○シカゴ写真展等	●大阪ガーデン・アニメ・ナイト ●大阪グルメナイト
10 月		○柏木大阪市副市長のシカゴ市訪問
11 月	○シカゴ・ジャズ・コンサート	

II. 大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業

1. 2008 大阪ハーフマラソンにシカゴから姉妹都市招待選手が参加（実施地：大阪市）

平成 20 年 1 月 27 日（日）に開催された 2008 大阪ハーフマラソンにシカゴからグレッグ・コステロさんが姉妹都市からの招待選手として参加しました。シカゴからは、コステロさんとともにコーチのマティアス・パルベチーノさんが来阪しました。

二人は 24 日（木）夕刻に大阪に到着し、その後、大阪・シカゴ協会主催の歓迎夕食会に参加しました。コステロさんは、「大阪の地で大阪ハーフマラソンに参加できることを心より感謝します。この素晴らしい都市でシカゴとアメリカを代表させていただくこととなり大変光栄に思っています。走ることは自分にとっては人生のミッションですが、まさかそのことを通じて地球の反対側を訪れることになるとは思いませんでした。しかし、結果としてハーフマラソンに参加させていただくこととなり大変ありがたく思っています。大阪での時間を思い出深いものにしてくださった皆様に心より感謝します。」と謝意を述べました。

1 月 25 日（金）には、大阪市役所を表敬訪問したほか、マラソンコースの下見を行いました。

1 月 27 日（日）の本番当日は、時折雪の舞う寒い日となりましたが、昨年を 1,000 名越える 4,000 名ものランナーが 11 時 10 分にスタートしました。



コステロさんは、一般の部 男子に出場しましたが、終始安定した走りを見せ、1 時間 7 分 37 秒というこれまでの大会記録を上回る記録で見事第 2 位でのゴールを果たしました。

表彰式では、司会者からコステロさんに対し、姉妹都市シカゴからの招待選手との紹介があり、大阪市民から大きな祝福を受けました。

2. シカゴ・ジャズ・マンデーの開催（実施地：シカゴ市）

シカゴ市ダウントウンの「アンディーズ・ジャズクラブ」にて、大阪出身のブルース／ジャズシンガーの野毛洋子氏とジャズ・ミー・ブルース・バンドが、『ジャズ・マンデー』と銘打って、2008 年 2 月から 12 月まで、毎週月曜日の夜 9 時から演奏を披露しました。

野毛氏は、2006 年、シカゴの地元大手新聞（シカゴ・トリビューン紙）で、「最も活躍した文化人」の一人に選ばれました。

また、野毛氏は、夫のクラーク・ディーン氏とともに 11 月に大阪を訪れ、大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念シカゴ・ジャズ・コンサート～YOKO NOGE & JAZZ ME BLUES～に出演し、『ジャズ・マンデー』を大阪でも披露しました。



3. 大阪市立高等学校とウォルター・ペイトン高校との姉妹校交換プログラム（実施地：大阪市）

大阪市立高等学校とシカゴ市のウォルター・ペイトン高校は、平成 18 年より姉妹校関係を結び、相互に隔年で相手校を訪問しています。

本年はウォルター・ペイトン高校から 20 名の生徒と 4 名の付添教職員らが平成 20 年 6 月 17 日（火）から 26 日（木）にかけて大阪市立高等学校を訪問しました。

特に今年は、大阪市とシカゴ市が姉妹都市となって 35 周年にあたるので、大阪市立高等学校の校庭にシカゴ市のあるイリノイ州の州樹であるホワイトオークを記念植樹することになりました。



6 月 19 日（木）の植樹式では、ウォルター・ペイトン高校の生徒と大阪市立高等学校の生徒会役員や関係教職員が見守る中、稲葉 廣校長と訪問団のルイス・キメル団長によるあいさつのあと、稲葉校長、キメル団長、大阪市立高等学校の生徒会長、訪問団の生徒代表の 4 名による植樹が行われました。

植樹の後、ウォルター・ペイトン高校の生徒たちは、樹の前で手作りの友好バナーを掲げて、「大阪市歌」を声高らかに合唱しました。

6 月 24 日（火）には、ウォルター・ペイトン高校の生徒・教職員らは、植樹式の写真を持って大阪市役所を表敬訪問しました。大阪市からは、橋本寛樹政策企画室国際交流担当部長らが応接し、歓迎のあいさつがありました。訪問団からは、両都市の友好を願うメッセージを伝えるとともに、両校の交流の内容や植樹式の様子を報告しました。

4. シカゴ姉妹都市フェスティバルにて大阪を披露（実施地：シカゴ市）

シカゴ市ダウンタウンに位置するシカゴ市庁舎横にあるデイリー広場にて、2008 年 6 月 6 日（金）姉妹都市フェスティバルが開催されました。大阪市も姉妹都市提携 35 周年の各イベントを PR したほか、市のシンボルである「みおつくし」を市の旗を使って説明するなど、シカゴ市民に OSAKA をアピールすることが出来ました。



5. シカゴ繁昌亭公演の開催（実施地：シカゴ市及びシカゴ市郊外）

2008 年 6 月 20 日（金）、21 日（土）の 2 日間、大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業における上半期のメインイベントとして、シカゴ市ダウンタウンのノースウエスタン大学ゾーン講堂とシカゴ郊外のアーリントンハイツにあるフォレストビュー教育センターにおいて『シカゴ繁昌亭公演』が盛大に開催されました。



繁昌亭は、大阪市の天満天神に 2 年前建設された落語専門の施設ですが、この舞台をシカゴに移し、シカゴ市民に落語を楽しんでもらおうというものです。公演には、2008 年 4 月より半年間にわたり、文化庁の文化交流使として全米落語ツアーを敢行中の英語落語の第一人者、桂かい枝氏のほか、この公演のため大阪から駆けつけた 3 名の演者も加わりました。

今回、落語会場としては広めの会場（750 席と 470 席）を使用しましたが、結果的には大入りほぼ満席で、日本からのテレビ取材も複数入り、熱気に包まれる中、幕が上がりました。

鳥山孝之大阪市シカゴ事務所長による主催者挨拶のあと、グレッグ・ロービック氏の軽妙な司会で早くも会場では笑いが沸き起こり、桂あさ吉氏の英語落語、内海英華氏の三味線漫談で

観客はぐんぐん引き寄せられました。間に入れた落語解説のDVDも、かい枝氏の軽妙な解説を得て、落語というものを知らない米国人には新鮮に映った様子でした。最後にかい枝氏が高座に上がる頃には舞台の盛り上がりは最高潮を見せ、かい枝氏の大きなアクションのある英語落語に会場全体が笑いの渦に包まれるなど、大阪の笑いの文化が現地の方々にはっきりと浸透したことが見て取れました。



後日、関係各方面から、「落語というものがこんなに面白いものだとは知らなかった。」といった賞賛の声が多く寄せられました。今回の繁昌亭公演は、昨年行われた全米文楽公演に加え、姉妹都市シカゴで大阪の伝統芸能をアピールすることに大きく寄与しました。

6. 日本祭りへの出展と大阪写真展の開催（実施地：シカゴ市郊外）



2008年6月21日（土）、22日（日）の2日間にわたり、シカゴ市郊外、アーリントンハイツにあるフォレストビュー教育センターにおいて、毎年恒例の日本祭りが開催され、大阪市は観光プロモーションの一環としてPRブースを出展するとともに、大阪写真展を開催しました。

日本祭りは、現地最大の日本に関するお祭りで、来場者の8割が日本に興味のある米国人だということです。今回は、大阪・シカゴ姉妹都市提携35周年にちなんでお祭りのテーマを大阪と位置付け、大阪市や総領事館などの公的機関や旅行代理店、雑貨販売等による約30ブースが出展されたほか、2か所のステージでは、日本の踊り、演奏、武道、アニメ上映などが披露されました。

本市が出展した大阪PRブースでは、大阪に関するパンフレット、ポスター、グッズの展示を行うとともに、新しい企画として『大阪クイズ』を行うなど、大阪について楽しみながら親しんでいただきました。

また、大阪写真展のコーナーでは、大阪の風景、施設、人物などのパネル写真約60点をキャプションを添え、米国人にも分かりやすく展示しました。大阪を訪れたことのある方も多数来られ、大阪城や通天閣の大きな写真の前で懐かしがっている様子も見受けられました。

初日の夜には、お祭りのスペシャルイベントとして行った『シカゴ繁昌亭公演』が大入りを得るなど、現地の方々には十分に大阪を満喫していただいた2日間でした。



7. シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会一行の来阪（実施地：大阪市）

シカゴ・大阪の姉妹都市提携35周年にあたり、平成20年7月3日（木）から7月9日（水）にシカゴ・ソーシャル・サービス交流団として、シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会の一行が来阪しました。

一行は、シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会共同委員長でシカゴ商工会議所理事でもあるティモシー・ヒル氏（団長）、クック郡家庭裁判所上席調整官（ソーシャル・ワーカー）のキャサリン・ボーランド氏、ワールド・ピース・ミニスター代表（牧師）のリーロイ・チルドレス氏、シカゴ定住者会専務理事／所長（ソーシャル・ワーカー）のジーン・藤生（フジウ）氏

の4名で、来阪の目的は、両市の生活向上のために社会福祉の専門家が革新的な「ソーシャル・サービス交流プログラム」の基礎を築くことです。基本に、姉妹都市の専門家が、お互いの経験から学び始めてこそ、世界中に共通する問題への取り組みを改善できるという考えがあり、この度、提携35周年を迎える姉妹都市大阪を訪問したものです。

一行は、高齢者、青少年、ホームレス、障害者施策にかかる課題について、大阪市の健康福祉局及びこども青少年局の関係者と意見交換会を行いました。シカゴ側から事前に提示されていた質問に大阪側が答えるかたちで進行し、専門的な観点から議論が行われる中で、両市が同種の社会問題に直面しているものの、罪を犯した青少年の対処には極だった違いがあることなどが明らかになりました。後日、一行から、互いの違いからどう学べば良いかを考える良い機会になったとのコメントとともに、今後も交流を継続したいとの要請が寄せられました。



その後、平松邦夫大阪市長を表敬訪問し、ヒル団長はソーシャル・サービス交流の基礎を築く代表団の目的を伝えるとともに、今回、両市の経済交流の活性化のため大阪商工会議所の招聘プログラムにより来阪している自分の役割についても説明し、これからの関係が発展するよう種をまき、両市の関係を強める意志があるということ平松市長に伝えました。

滞在中、一行は、大阪城、大阪歴史博物館、四天王寺、大阪平和センターなどの視察を通じて、大阪の文化・歴史の見識について深く勉強する機会を得るとともに、大阪・シカゴ協会会長（兼大阪・シカゴ姉妹都市提携35周年記念事業実行委員会委員長）であり、丸紅株式会社大阪支社長の世一秀直氏との意見交換も行いました。

また、大阪市立中央青年センターを見学し、青少年事業の現場を視察するとともに、大阪BBS連盟へも訪問し、日本における非営利組織の青少年育成への役割に関する理解を深めました。

さらに、大阪市立大学にも訪れ、日本における社会奉仕職の発展の歴史に加え、現時点、あるいは未来における課題について、生活科学研究科の白澤政和教授からレクチャーを受けました。同大学では沢山の研究者が同席する中、活発な質疑応答が行われました。



その後、場所を京都に移し、「保護より機会を」をモットーにしているオムロン京都太陽株式会社の「太陽の家」を訪れ、障害者の社会復帰に対して会社が果たせる役割について理解を深めました。

多くの関係者と意見を交える中で、シカゴと大阪には沢山の共通点があることを再認識できましたが、特に両市が「水」と共生しているということは特筆すべき点であり、昨年、この分野で大阪市とシカゴ市のあるイリノイ州は共同宣言を行いました。今回の訪問でも、道頓堀地区の見学や河川改善事業の説明、大阪の複数の河川を姉妹都市協会会員と楽しむ姉妹都市協会事業の「納涼の夕べ」や到着港である八軒家浜港で行った水のイベントへの参加を通じて『水都大阪』を体感してもらうことができました。

今回の訪問により両市の友好関係はさらなる進展を遂げましたが、この関係を維持・発展できる様、今後も積極的にこのような交流を続けていくことを約束しました。

～水のイベントを同時開催～

平成20年7月6日（日）八軒家浜港にて、「ほんまや」イベントを開催しました。

このイベントは、同日、大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業の一環として行われる「納涼の夕べ」に合わせて実施し、「納涼の夕べ」に参加のシカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会のティモシー・ヒル共同委員長ら一行をはじめ、八軒家浜に集まられた多くの市民の方々に、大阪市の安全でおいしい水を「ほんまや」を通じて広く PR を図るものです。



大阪市とシカゴ市のあるイリノイ州とは、平成 19 年 9 月に「河川を活かしたまちづくり」の共同声明を行っていることから、この「ほんまや」イベントでは、『豊かな水源環境とおいしい大阪の水』をトークのなかで紹介しました。

このほか、「ほんまや」と市販のミネラルウォーターとのきき水やシカゴグッズ等が当たる抽選会など、大阪の水「ほんまや」をたくさんの方々に親しんでいただくイベントとなりました。

【八軒家浜港 ほんまやイベント概要】

- 開催日時 平成 20 年 7 月 6 日（日）17：00～20：00
- 開催場所 八軒家浜港（中央区天満橋京町）
- 参加者 市民及び「納涼の夕べ」参加者
- 内 容 17:00～・「ほんまや」きき水（ミネラルウォーターとの飲み比べ）
 - ・「ほんまや」特設販売19:00～・『安全でおいしい大阪の水』と「ほんまや」に関するトーク
 - ・抽選会(シカゴカブス T シャツ、「ほんまや」ポロシャツなど)

(参 考)

「納涼の夕べ」（姉妹都市協会事業）クルージング・ルート

大川周遊：湊町船着場(18:00)～道頓堀川・東横堀川・大川～八軒家浜港(19:30)

8. スピーチコンテスト優秀者の相互訪問（実施地：大阪市及びシカゴ市）

毎年、スピーチコンテストが大阪市とシカゴ市それぞれで開かれています。昨年度の優秀者、シカゴ側（第 22 回日本語弁論大会）のコリン・ステッカー君と大阪側の（第 41 回英語スピーチコンテスト）大嶺涼子さんが、副賞としてそれぞれ互いの姉妹都市を訪問し、ホームステイをはじめ、現地で多くの方々と交流を深めました。

【シカゴからの訪問：コリン・ステッカー君】

「危機にある文化多様性」をテーマにしたスピーチで見事に第 22 回日本語弁論大会の姉妹都市大阪賞を受賞したコリン・ステッカー君が、平成 20 年 7 月 23 日（水）から 30 日（水）まで約 1 週間来阪しました。

22 歳であるコリン君はウィスコンシン大学マディソン校で熱心に日本語の勉強に取り組んでおり、今年で日本語学習歴は 5 年になります。レベルが非常に高いことで評判がある日本語弁論大会では、「グローバル化に言語や文化がだんだん破壊されてしまう危機に直面している我々には、消えそうな文化を保とうという人間としての責任が、一人一人にある」ことを流暢な日本語で表現し、姉妹都市大阪賞を受賞しました。

滞在中、大阪・シカゴ協会会長で丸紅株式会社大阪支社長の世一秀直氏を訪問し、コリン君

は日本で働きたいという思いを伝えました。このほか、ホームステイでの貴重な経験はもとより、大阪の代表的なお祭りである天神祭での大阪締めに参加や大阪市の観光スポット、施設の視察を通じて、大阪への理解をより深めることができた様でした。

帰国後、コリン君からメールが届き、ホームステイをはじめ大阪での温かいもてなしに感謝の気持ちを表すメッセージがあったとともに、シカゴで大阪の良さをアピールしたいとのコメントも寄せられました。



～コリン・ステッカー (Collin Stecker) 君からのメッセージ～

一週間はそんなに長くは無いですけど、大阪をちゃんと体験することが出来てありがたいと思います。天神祭りに行った時、大阪締めにも参加して、大阪の人々の精神にも触れたような気がしました。

私のホストファミリーのみんなが仲よくて、このホームステイで大阪の人々が楽しい、そしてやさしいということを実感しました。他の色々な経験もさせていただいたおかげで大阪のみりよくが分かってきて、チャンスがあればまた大阪に戻りたいと思います。(漢字等原文まま)

【シカゴへの訪問：大嶺涼子さん】

～大嶺涼子さん（第41回英語スピーチコンテスト 大学の部／大阪・シカゴ協会会長賞）のシカゴ訪問記～

大阪市の姉妹都市であるシカゴ市に8月7日から約3週間行ってきました。

まず、関空からサンフランシスコへ行き、シカゴ行きの飛行機に乗り換え、延着の影響もあり現地に着いたのは夜の10時近くでした。

お世話になった1組目のホストファミリーのJacob家は兄弟の歳が近いということもあり、学校の事、文化の違いや政治経済の話に花が咲きその日は夜中まで話し込みました。翌日はホストブラザーの誕生会で親戚の人達が20人近く来て、BBQやお菓子を賭けたゲームをしました。最後の日にはミニゴルフに行き、ホストパパが運転する車で次にお世話になるホストファミリーのRoy家に向かいました。

Jacob一家が帰った後、泣きじゃくっていた私に皆はティッシュをくれたり、飲み物を出してくれたり優しく迎えてくれました。翌日からシカゴ市内の語学学校に通うことになっていたので、朝の6時に起きホストパパと電車で1時間近く揺られながら駅に着くまで話をしました。建築物で有名なシカゴだけあって、一つ一つの建物が息を呑むほど高く聳え立ち、歴史を感じさせるデザインと色合いをしていました。

初日はレベルテスト、翌日からは通常授業に入り、北京オリンピックの事、文法や理科を主に勉強しましたが、他国から来た生徒と共に『英語』を学び話す中で、発音の違いやアクセントで苦戦することが一番多かったです。2週目に入るとクラスの皆とも仲良くなり、最後の授業の日には先生も一緒にランチを食べに行きました。放課後はシカゴ日米協会やシカゴ日本商工会議所のミーティングがあり、日本に企業発展を目指す企業や日系企業を支援するプログラムについて学びました。

2週間滞在したRoy家との最後の週末は、家族やホストパパの仕事仲間とホワイトソックスの本拠地USセルラー・フィールドのスカイボックスと言うプライベートルームで試合を観戦しました。食べ放題でデザートカーが回ってきたりするので、VIPのような気持ちになりました。

た。試合は見事、延長逆転でホワイトソックスが勝ちました。

翌日の早朝にホストパパの運転で3組目のホストファミリーのCarolの家に着きました。彼女は日本語の教師でシカゴ大阪姉妹都市委員会のトップメンバーでもあります。初日は博物館に行き、夕方から委員会の会議に出席し会長や会員の方々にお会いしました。私に来るまでの一年間にたくさんの方の協力があったことを実感し、改めて自分がシカゴに派遣された意味を考えさせられました。その後にシカゴで一番有名な日本人ジャズシンガーの演奏を聴きに行き、その方が大阪出身であることに親近感を抱きました。翌日はデイホストのTeresaとKarlと動物園に行き、ミシガン湖の周辺を散歩し、夕方には片道5キロをサイクリングして、お弁当を食べながら野外映画を観ました。

そして、いよいよ最後のイベントの食事会が中華街でありました。お世話になったホストファミリーに大阪市シカゴ事務所長の鳥山さんが感謝を述べると、Roy家のホストパパが、『私達こそ涼子と巡り合うことができ感謝しています。』と私を見て言いました。その瞬間に一気に涙が溢れ出て、3週間の間に200人以上の方にお世話になり様々な分野の事を教えてもらい、今自分が素晴らしい環境におり、またそのような機会をいただいたことに改めて感謝しました。

食事会の後は日米のテレビ関係者の方が家に来て、シカゴと大阪の相違点などを中心としたローカルテレビのドキュメンタリー番組の取材を受けました。



最終日の夜に荷造りをしていると、一つ一つのものに一日一日の思い出が詰まっていて、何をすることも寂しさが募って来ました。3週間を振り返ると大阪との違いをたくさん感じましたが、それらを批判すると言うよりも、違いは個性であり利点だと気付かされました。また何よりも、一歩下がって自分自身を客観的に見るようになり、今まで理解できなくて知らん顔していたことも『分からない』ときちんと言えぬ様になりました。今回の経験で国際ビジネスに魅了され、卒業後はオーストラリアでワーキングホリディのプログラムに参加してシカゴの大学でビジネスの勉強をし、外資系企業で日本と海外を結ぶビジネス戦力として働いていきたいと思っています。

今回のように素晴らしい機会をくださり、また様々な経験をさせていただいた大阪市・シカゴ市姉妹都市の皆さんとシカゴでサポートして下さったホストファミリーの方々、そして私が沖縄から大阪に来ることを許してくれた両親に心から感謝します。

ありがとうございました。

9. 大阪ガーデンの整備（実施地：シカゴ市）

姉妹都市提携35周年を記念して、シカゴ市が大阪市の協力を得て1992年にダウンタウン南部のジャクソン公園内に作った日本庭園「大阪ガーデン」を再整備しました。

大阪ガーデンは、元々、1893年シカゴで開催されたコロンビア万博の際に日本国政府から寄贈された鳳凰殿の周辺に日本庭園を配置したのが起源とされています。

その後、火災による建物消失、公園移転などを経て、1993年、大阪市が姉妹都市提携20周年記念として25万ドルを投じて公園再整備を行った見返りとして、シカゴ市より「大阪ガーデン（正式名称は『大阪日本ガーデン』）」と命名されました。



再整備以来 15 年の年月が経過し、景観の乱れや設置物の損傷が激しく、日本庭園が本来持つ趣が失われつつあったことから、姉妹都市提携 35 周年を機に、シカゴ市が公園美化回復や設置物修復を行い、2008 年 10 月の柏木 孝大阪府副市長のシカゴ訪問時に、両市関係者のほか一般市民も招いて再整備完成式を実施しました。

10. メラメド CME グループ名誉会長の来阪（実施地：大阪市）

平成 20 年 9 月 1 日（月）から 9 月 3 日（水）まで、シカゴからシカゴ・マーカンタイル取引所（CME）グループのレオ・メラメド名誉会長が来阪しました。

シカゴ・マーカンタイル取引所は、1898 年にシカゴ・バター・卵取引所として創立され、1919 年にシカゴ・マーカンタイル取引所に改組されました。1972 年にメラメド名誉会長（当時会長）によって大胆な改革が行われ、デリバティブ商品の上場に積極的に取り組み、現在では先物取引において世界最大を誇っています。

メラメド名誉会長は、大阪証券取引所等が主催する日経平均先物 20 周年記念シンポジウムへ出席するため来阪しましたが、大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業におけるリチャード・M・デイリー シカゴ市長の特別代理としての役割も担い、同グループ常務取締役兼最高経営戦略責任者のケンダル・ヴロマン氏、アジア担当常務取締役の C.F. ウォン氏、東京事務所長の久野善夫氏とともに平松邦夫大阪市長を表敬訪問したほか、3 日（水）には大阪証券取引



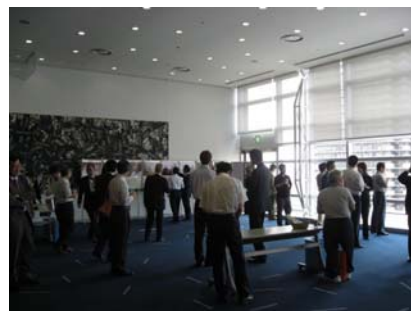
所にて「日経 225 先物 20 周年記念」と「大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念」についてのプレス・カンファレンスを行いました。

平松市長への表敬訪問では、メラメド名誉会長は、デイリー市長の親書を手渡し、メッセージを伝えるとともに、両市間のつながりが深まるよう自ら努力したいと述べました。これに対し、平松市長は、大阪市民を代表して、金融市場におけるメラメド名誉会長の功績に敬意を表するとともに、経済をはじめ広い分野でシカゴ市との関係を深めていきたいという意向をデイリー市長に伝えて欲しいと述べました。

～シカゴ写真展等を同時開催～

メラメド CME グループ名誉会長の来阪の機を捉え、日経平均先物 20 周年記念シンポジウム会場前のホワイエにて大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念コーナーを設置したほか、市役所玄関ホールにて「シカゴ写真展」を開催し、姉妹都市シカゴの PR を行いました。

写真展は、より多くの市民の方々にシカゴのことを知っていただける様、この後、10 月 5 日（日）に天保山にて行った「国際交流フェスタ～みなと秋まつり」や、12 月 3 日（水）、4 日（木）に行った市公館の一般公開でも展示を行いました。



観覧された市民の方々は、シカゴ在住の写真家 藤河信喜氏の作品や同氏の活きた解説を通じて、シカゴの観光地（シアーズ・タワー、リグレー・フィールドなど）から日常生活の光景まで、シカゴの多様な面の数々を楽しまれていました。

（参考）メラメド CME グループ名誉会長来阪日程
来阪期間：平成 20 年 9 月 1 日（月）～ 3 日（水）

来阪目的：日経平均先物 20 周年記念シンポジウムへの参加（主催：大阪証券取引所他）

※詳細は下記「日経平均先物 20 周年記念シンポジウムについて」参照

日 程：9 月 1 日（月）

夕刻 大阪へ到着

9 月 2 日（火）

10:00～10:20 大阪市長表敬（大阪市役所 5 階 市長公室）

13:30～17:45 日経平均先物 20 周年記念シンポジウム出席
（大阪国際会議場 12 階 特別会議場）

※会場前にて大阪・シカゴ 35 周年記念コーナー設置

18:15～ 日経平均先物 20 周年記念レセプションパーティー出席
（リーガロイヤルホテル大阪 2 階 菊の間）

9 月 3 日（水）

8:30～8:50 日経 225 先物 取引開始記念セレモニー出席
（大阪証券取引所 1 階 アトリウム）

9:00～9:40 「日経 225 先物 20 周年記念」と「大阪・シカゴ姉妹都市提携 35
周年記念」についてのプレスカンファレンス
（大阪証券取引所 5 階 取締役会室）

午前 東京に向けて出発

【メラメド CME グループ名誉会長来阪中の大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念事業詳細】

①メラメド シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）グループ名誉会長表敬訪問

日 時：平成 20 年 9 月 2 日（火）10:00～10:20

場 所：大阪市役所 5 階 市長公室

出席者：（表敬側）メラメド CME グループ名誉会長ほか
（市 側）平松大阪市長ほか

②日経平均先物 20 周年記念シンポジウムにおける大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念 PR
コーナー設置

日 時：平成 20 年 9 月 2 日（火）9:00～17:45

場 所：大阪国際会議場 12 階 特別会議場前ホワイエ

内 容：大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念にまつわるパネル展示

③「先物取引 20 年の歴史」と「大阪・シカゴ姉妹都市提携 35 周年記念」についてのプレス
カンファレンス

日 時：平成 20 年 9 月 3 日（水）9:00～9:40

場 所：大阪証券取引所 5 階 取締役会室

内 容：メラメド CME グループ名誉会長による「日経 225 先物 20 周年記念」と「大阪・シ
カゴ姉妹都市提携 35 周年記念」についての記者会見

④シカゴ写真展

日 時：平成 20 年 9 月 1 日（月）～12 日（金） 9:00～17:30

場 所：大阪市役所玄関ホール

内 容：写真家 藤河信喜氏（シカゴ市在住）による写真他

藤河信喜（ふじかわ のぶよし）氏プロフィール

シカゴ市在住の写真家

50 カ国以上の国々を旅しながら、その土地で暮らす人々の普段着の素顔をレンズを通して記録。現在は、地理的に北米の交差点に位置するシカゴを拠点に、フリーランスフォトグラファーとして主に全米各地での撮影を行っている。

※ 日経平均先物 20 周年記念シンポジウムについて

日時：平成 20 年 9 月 2 日（火）9:00～17:45

場所：大阪国際会議場 12 階 特別会議場

主催：大阪証券取引所

大阪大学

日本経済新聞社

日本経済新聞デジタルメディア

後援：金融庁、日本証券業協会

日程：○第 I 部

9:00～ 9:15 開会挨拶

9:15～11:45 大学研究者の金融資産価格・デリバティブに関する研究成果報告

○第 II 部

13:30～13:45 主催者挨拶

13:45～14:30 祝辞スピーチ レオ・メラメド氏（CME グループ）

14:30～15:30 基調講演「デリバティブの社会的意義」

ステファン・A・ロス氏（マサチューセッツ工科大学）

15:30～16:00 休憩

16:00～17:30 パネルディスカッション

「日経 225 先物の 20 年の歩み、更なる可能性」

モデレーター：大崎貞和氏（野村総合研究所）

パネリスト：ステファン・A・ロス氏（マサチューセッツ工科大学）

北原奈緒美氏（UFPF フィナンシャル・サービス）

仁科一彦氏（大阪大学）

前田昌孝氏（日本経済新聞社）

17:30～17:45 閉会挨拶

※※レオ・メラメド シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）グループ名誉会長について

レオ・メラメド氏は金融先物市場の創始者と呼ばれています。1999 年には「シカゴ・トリビューン」誌の当時の編集長より 20 世紀のビジネス分野においてシカゴでもっとも重要な 10 人のうちの一人に選ばれました。「シカゴマガジン」誌は氏を 20 世紀トップ 100 のシカゴ人の一人として選び、2003 年には「ペンション・アンド・インベストメント」誌が過去 100 年において金融界に「もっともドラマチックな変化を起こした」30 人のうちの一人に挙げました。

レオ・メラメド氏の功績はアメリカの繁栄を体現したものと言えます。氏は、幼少の頃第二次世界大戦中にアメリカに亡命しました。出生地であるポーランドのビャリストクから両親とともにゲシュタポや KGB の手から奇跡的に逃れて亡命できた話はハリウッドの映画で語られて

いるとおりです。それは2年にわたる波乱万丈の旅でした。3大陸、7ヶ国語にわたる旅をシベリア鉄道で横断、在リトアニア領事であった杉原千畝氏による命のビザの発給を受け日本を経由、そして1941年に無事アメリカにたどり着いたのでした。

1972年、シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）の会長として、メラメド氏は金融先物取引を開始、世界初の金融商品のための先物取引市場として国際金融取引市場部門（IMM）を創設しました。金融先物取引は20年を経た1992年、ノーベル経済賞受賞者であるM. ミラー氏から、「過去20年でもっとも重要な革新」と絶賛されました。その後、氏は1976年の米国財務省短期証券、1981年のユーロダラー金利、1982年の株式先物指数などを含む様々な金融商品の開発を指揮し、CMEを率いてきました。1987年には世界初の先物電子取引システムであるグローベックス(R)の導入の発案および指揮をし、その運営主体の初代会長となりました。シカゴ・マーカンタイル取引所は今日CMEグループとして知られ、『本年8/22、NY商業取引所(NYMEX)との合併を完了』その株式はニューヨーク証券取引所およびNASDAQに上場されている世界でトップの先物市場となっています。

メラメド氏には多くの金融市場についての著作があり、氏の回想録“Escape to the Futures（エスケープ・トゥ・ザ・フューチャーズ）”は、日本語、中国語、韓国語に翻訳され、出版されています。メラメド氏は、受賞歴も多く、その中には2005年のFred Arditti Innovation Award of the Chicago Mercantile Exchangeもあります。また、氏は2000年にロヨラ大学より、2005年にデュポール大学より人文学博士の称号を、また1999年にイリノイ大学から文学博士の称号を受けています。中国北京の人民大学にて名誉教授の称号を得、2007年には北京大学のデリバティブスクールで名誉学部長に任命されています。2007年にはさらに中国政府の特別研究部門のCASFEDAに任命されています。メラメド氏は国際金融工学協会の上級研究員でもあります。2008年にはEllis Island Medal of Honorを受賞しました。

メラメド氏は弁護士で、先物取引の現役トレーダーでもあります。また、グローバルマーケットのコンサルティングサービスを行うメラメド&アソシエイツの会長兼CEOも務めています。

11. 大阪ガーデン・アニメ・ナイトの開催（実施地：シカゴ市）

2008年9月6日（土）の夕刻、シカゴ市内にある唯一の日本庭園、大阪ガーデンにおいて、大阪生まれの漫画界における巨匠、手塚治虫氏のアニメ上映会を開催し、約100名の家族連れが、夏の終わりの屋外イベントを堪能されました。

当日は朝方から曇り空で、雨が心配されましたが、関係者の祈りが通じたのか、夕方からは日差しも見える、まずまずのコンディションで開催されました。この時期のシカゴは、夜間は既に肌寒いのですが、当地の方々はこの種のイベントに慣れているためか、皆さん、ローンチェアやシート、毛布を持参さ



れ、上映までの間は、公園事務局から提供を受けたポップコーンなどをほうばりながら、ピクニック気分を楽しまれていました。

日没19時50分頃から、開会に先立って、シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会共同委員長ティム・ヒル氏の挨拶の後、鳥山孝之大阪市シカゴ事務所長による手塚アニメに関する紹介があり、その後、手塚治虫氏のドキュメンタリ

ーフィルムの上映がありました。

次は、いよいよ手塚アニメの上映です。今回は、数ある名作の中から、日本初のカラーアニメシリーズで好評を博したジャングル大帝（英語名 KIMBA）から、人気のストーリー3話を選んで上映しましたが、上映時間1時間半の間はほとんど立たれる人もなく、皆、一様に名作に見入っていました。

今回のイベントは、大阪・シカゴ大阪姉妹都市提携35周年記念事業の一環として、大阪ガーデンをシカゴの方々に広く知ってもらいたいという思いも込めて開催しました。

12. 大阪グルメナイトの実施（実施地：シカゴ市）



2008年9月26日（金）～28日（日）、シカゴ市の姉妹都市の中から、7都市のハイアット・リージェンシー・ホテルのシェフを招聘し、世界の味の競演「シカゴグルメ」がシカゴ市等の主催で開催されました。

大阪代表としては、ハイアット・リージェンシー・オーサカのルーク・エルダー氏がシカゴ市へ赴き、和洋取り混ぜた独自の料理を提供し、シカゴの方々に披露しました。

大阪市では、協賛イベントとして協力したほか、「シカゴグルメ」の前夜祭として、9月25日（木）トランプタワーで「大阪グルメナイト」を開催し、大阪姉妹都市サポーター約30名の方々にグルメ都市大阪の味を提供しました。



13. 柏木大阪市副市長のシカゴ市訪問（実施地：シカゴ市）

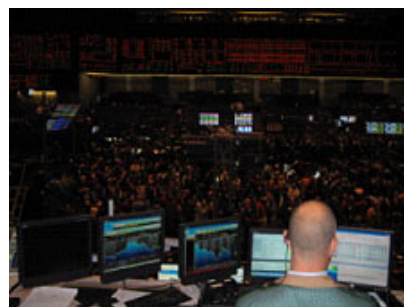
大阪・シカゴ姉妹都市提携35周年を記念して、柏木 孝大阪市副市長が、平成20年10月15日（水）～20日（月）の出張期間で、シカゴ市を訪問しました。

シカゴ市滞在中は、大阪ガーデンの再整備完成除幕式など記念行事に参加したほか、柏木副市長自らが大阪市の都市再生、都市魅力についてアピールする「大阪セミナー」を開催する等、広く大阪のプロモーションを行いました。

○10月16日（木）9:00～10:30

CBOT（シカゴ商品取引所）訪問 （場所）シカゴ商品取引所

世界一の先物取引高を誇るCME（シカゴマーカンタイル取引所）グループのシカゴ商品取引所を視察するため現地を訪問しました。9時から同グループのジェリネック商品部次長より取引所の概要について説明を受け、9時半から始まるトウモロコシや大豆の先物・オプション及び金融先物取引の場たちを見学しました。また、35年前、金融先物取引がスタートした場所という部屋を見学して大阪シカゴ姉妹都市の歴史と同時期であることが判明し、シカゴの先物取引所は大阪の堂島米会所を模範にして設立されたことを合わせ、大阪シカゴ両都市の関係と両都市の先物取引の歴史のつながりの深さを強く印象づける訪問となりました。



○10月16日(木) 11:30~11:50

デイリー シカゴ市長表敬訪問 (場所) シカゴ市庁舎

提携先のトップであるリチャード・M・デイリー シカゴ市長を表敬するためシカゴ市庁舎を訪問しました。会談場所として市長執務室に案内され、まずデイリー市長から大阪シカゴ姉妹都市提携35周年記念の額が柏木副市長に贈られ、柏木副市長からは龍村織のテーブルセンターをデイリー市長に贈りました。その後、記念の写真撮影をしてから着席し、



柏木副市長から、このたびのシカゴ訪問目的(姉妹都市提携35周年事業イベントの参加、大阪セミナーの開催、ユナイテッド航空のシカゴ大阪直行便の復活要請等)を説明するとともに、シカゴ市が2016年オリンピックの開催都市を目指していることについて触れたところ、デイリー市長からは、オリンピック誘致競争は厳しい状態なので大阪の経験も学びたい旨述べられました。また、デイリー市長は、ユナイテッド航空のシカゴ大阪直行便の誘致については手紙を書くなど自分も応援したい旨述べられ、大阪セミナーについては、来春シカゴの姉妹都市が集まる会議があるのでその場でプレゼンテーションしてはどうかと提案されました。また、柏木副市長から、大阪は2008年に向けたまちづくりが推進された結果、4年前とはかなり変わった旨述べたところ、デイリー市長から4年前大阪市を訪問した折、良い印象を持っており、再度訪問したいとの発言がありました。

○10月16日(木) 15:00~17:15

大阪セミナー開催 (場所) スイスホテル

大阪市の都市再生、大阪のビジネスポテンシャルなど都市魅力についてアピールするとともに、大阪商工会議所や関西国際空港の方々からもプレゼンテーションを行っていただき、大阪市への投資促進や企業・大学などの誘致等を促す契機とすることを狙いとする「大阪セミナー」を開催しました。当日は、大阪への関心が高い企業関係者等約70名の参加を得て活発な質疑応答や意見交換がなされました。



<次第>

- ・ 歓迎スピーチ(5分)：ワールド・ビジネス・シカゴ バルトコスキー国際ビジネス部長
- ・ 大阪市の都市再生と元気なまちづくりについて(10分)：大阪市 柏木副市長
- ・ DVD「More Dynamic」上映(10分)
- ・ 大阪商工会議所情報家電ビジネスパートナーズ事業について(15分)：大阪商工会議所 経済産業部ベンチャー振興担当 大林副主任
- ・ 日本への玄関口～日本で最初の24時間空港～について(15分)：関西国際空港(株) 堀之内常務取締役
- ・ カーネギーメロン大学の大阪市への進出について(15分)：カーネギーメロン大学エンターテイメントテクノロジーセンター ロンバルディ入試・マーケティング部長
- ・ 質疑応答や意見交換(30分)

※フロアの参加者から、スポーツ施設を含めた大阪のまちづくりについての質問やシカゴと大阪に立地する空港同士の提携に向けた提案などあり。

○10月16日（木）17:30～19:30

大阪レセプション開催（場所）スイスホテル

セミナー終了後、参加者の方々に直接働きかけ、ネットワークを広げる場として、また、参加者同士の交流の場として隣の部屋で軽食レセプションを開催しました。2時間にわたり多くの参加者と有意義な意見・情報交換を行いました。

<次第>

- ・開始の挨拶：大阪市 柏木副市長
- ・シカゴ関係者の挨拶：シカゴ姉妹都市プログラム シマンスキー事務局長
- ・35周年事業の紹介：シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会 ヒル委員長
- ・事業紹介（姉妹校）：ウォルター・ペイトン高等学校 キメル先生
- ・事業紹介（社会福祉交流）：シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会 ボーランド氏



○10月16日（木）20:00～22:00

姉妹都市関係者との意見交換会（場所）ミッドアメリカクラブ

シカゴ市リー副市長やシカゴ姉妹都市委員会のメンバーと夕食をともにしながら2時間にわたり意見交換を行いました。例えば、大阪委員会のメンバーの中から、ハンブルク市はシカゴ市と大阪市の共通の姉妹都市なので、3都市共同のプロジェクトが考えられないかといった提案がなされました。

<シカゴ側の主な出席者>

シカゴ市リー副市長、シカゴ姉妹都市プログラム シマンスキー事務局長、同プログラム大阪委員会ヒル共同委員長、野毛共同委員長、ウォルター・ペイトン高校キメル先生ほか大阪委員会メンバー 計12名



○10月17日（金）10:00～11:15

ユナイテッド航空社訪問（場所）ユナイテッド航空本社

大阪・シカゴ間の直行便の復活をユナイテッド航空の首脳陣に直接要望しました。UA側からは、かつて運航していたものの、採算上続行が困難なため取りやめたものであり、運航再開に向けては地元側のリスク負担や支援も必要との返答がありました。今後、両者とも大阪・シカゴの直行便の重要性を認識し、再開に向けて引き続き可能性を探っていくことになりました。

<UA側の参加者>：フォーランド上席副社長、シン副社長、シェリダン常務、カルダール常務ほか

